

重要文化財・登録有形文化財
東北学院 歴史的建造物ガイド

Guide to Tohoku Gakuin's National Important Cultural Property
and Registered Tangible Cultural Properties (Architecture)



Contents

- はじめに p1・2
- 文化財 5件(概要) p3・4
- 東北学院旧宣教師館(デフォレスト館) p5・6
- 東北学院大学本館 p7・8
- ラーハウザー記念東北学院礼拝堂 p9・10
- 東北学院大学大学院棟 p11・12
- 東北学院大学正門 p13・14
- 東北学院の礎を築いた三校祖 p15
- 写真で振り返る学舎のあゆみ p16
- 校舎略年表 p17
- キャンバスマップ p18

東北学院は、1886(明治19)年、キリスト教伝道者養成を目的として開校された「仙台神学校」をその源流とします。キリスト教精神に基づく人間教育は、幼稚園から大学院までを擁する総合教育機関に発展した今日も、生きた伝統として受け継がれています。

東北学院大学土樋キャンパスには、東北学院と学都仙台の歴史を刻む5件の歴史的建造物が残されています。東北学院大学本館(旧専門部校舎)・ラーハウザー記念東北学院礼拝堂・東北学院大学大学院棟(旧シュネーダー記念東北学院図書館)・東北学院旧宣教師館(デフォレスト館)・東北学院大学正門の5件です。2013(平成25)年の東北学院旧宣教師館(デフォレスト館)に続き、2014(平成26)年、東北学院大学本館・ラーハウザー記念東北学院礼拝堂・東北学院大学大学院棟が国の登録有形文化財(建造物)に登録されました。その後、東北学院旧宣教師館(デフォレスト館)は2016(平成28)年に国の重要文化財に指定され、更に2021(令和3)年には東北学院大学正門が登録有形文化財(建造物)に追加されました。これら建築史的にも貴重な建造物に触れて、東北学院の建学の精神と、明治、大正、昭和と続く歩みに思いを馳せていただければ幸いです。

Tohoku Gakuin was originally founded as Sendai Theological Seminary (Sendai Shin Gakko) in 1886 with the goal of training evangelical Christians. This tradition lives on in the form of a comprehensive educational institution which offers programs at the kindergarten, high school (junior and senior) and university (undergraduate and graduate) levels.

On the Tsuchitoi Campus of Tohoku Gakuin University, five historic buildings stand in testament to the history of Tohoku Gakuin and the educational roots of Sendai. In 2013, the DeForest family home was designated a Registered Tangible Cultural Property. This was followed, in 2014, by the registering of the Main Building of Tohoku Gakuin, the Rahausser Memorial Chapel, and the Tohoku Gakuin University Graduate School Building. In 2016, the DeForest family home was designated a nationally Important Cultural Property, and furthermore, in 2021, Tohoku Gakuin University Main Gate was added to the list of Registered Tangible Cultural Properties. It is our hope that these historic buildings will inspire a deeper appreciation of the founding spirit of Tohoku Gakuin and it's over one hundred and thirty years of history and tradition.





東北学院旧宣教師館(デフォレスト館) ~ DeForest Family Home ~

1887(明治20)年建築の東北学院旧宣教師館(デフォレスト館)は、宮城英学校(新島襄校長・翌年、東華学校と改称)のキリスト教宣教師の住宅として建てられました。米国のコロニアル様式を取り入れた西洋館で、わが国に残る外国人宣教師の住宅として最初期の事例です。



東北学院大学本館

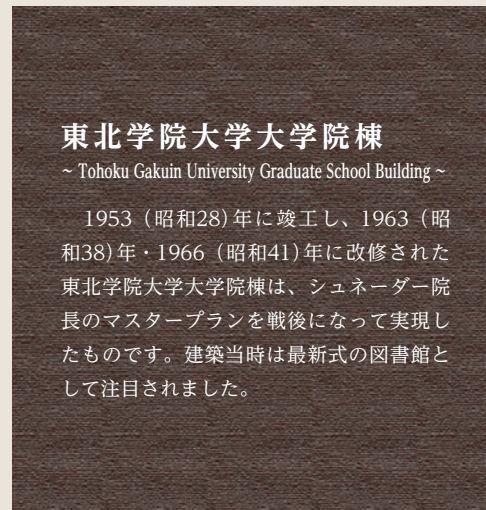
~ Tohoku Gakuin University Main Building ~

1926(大正15)年竣工の東北学院大学本館は、カレッジ・ゴシック様式と呼ばれる中世城郭風の意匠をもった校舎です。米国人建築家J・H・モーガンの設計による鉄筋コンクリート造で、外装には秋保産石材が使われています。



ラーハウザー記念東北学院礼拝堂 ~ Rahausen Memorial Chapel ~

1932(昭和7)年竣工のラーハウザー記念東北学院礼拝堂は、巨額の献金を寄せたエラ・A・ラーハウザーにちなみ名前が付けられました。現在も授業期間中は毎日礼拝が行われ、本学のキリスト教教育の根幹をなす場となっています。



東北学院大学大学院棟

~ Tohoku Gakuin University Graduate School Building ~

1953(昭和28)年に竣工し、1963(昭和38)年・1966(昭和41)年に改修された東北学院大学大学院棟は、シュネーダー院長のマスタープランを戦後になって実現したものです。建築当時は最新式の図書館として注目されました。



東北学院大学正門

~ Tohoku Gakuin University Main Gate ~

1926(大正15)年竣工の東北学院大学正門は、本館と同じJ・H・モーガンの設計による2基一対の門型構造物です。奥に見える本館と一体となって、キャンパス草創期から変わらない景色を今に伝えています。



東北学院旧宣教師館（デフォレスト館）

DeForest Family Home



A

米国のコロニアル様式を採用し地元大工が建てた瀟洒な洋館

東北学院旧宣教師館（デフォレスト館）は、1887(明治20)年、新島襄を校長とする宮城英学校(翌年、東華学校と改称)の米国人宣教師の住宅として、宮城県技手により設計、地元大工により建築され、デフォレスト宣教師一家が長く居住しました。デフォレストの死後、東北学院の宣教師住宅として使われ、1940(昭和15)年に東北学院の所有となりました。大戦後シップル教授一家が居住したことから長く「シップル館」と呼ばれていましたが、重要文化財指定を機に「東北学院旧宣教師館(デフォレスト館)」と呼ぶことになりました。木造2階建・外壁下見板張の瀟洒な洋館で、米国のコロニアル様式を採用しています。北面に欠円アーチの玄関、南面1、2階にベランダが設けられ、1階は玄関ホールを中心に書斎、居間、食堂等、2階は寝室となっています。雨漏り防止等のため、2007(平成19)年に雄勝石のスレート屋根をカラー鉄板横葺に替え、耐震調査、図面の復元等を実施し建物の保存・保全を図りました。



B



C



D

- A 菱格子で装飾された天井、ポーチの大きな窓、開放的なベランダ等にコロニアル様式の特徴が見られます。
- B 建具、階段、床、内壁、モールディング等の建物の細部にもコロニアル様式の意匠が散見されます。
- C 居間の一箇所にのみ残る暖炉・マントルピース。暖炉は当初、書斎と居間、食堂と小児室というようにレンガの煙突の両側に設けられていました。
- D 玄関ポーチは、西洋古典様式の柱と楕形ベディメントで構成しながらも、和風建築の意匠である鬼瓦や渦紋の絵様線型が用いられています。

〔所在地〕土樋キャンパス(仙台市青葉区土樋1-3-1)
〔建設年〕1887(明治20)年
〔設計者〕宮城県土木課技手 植田 登
〔階数〕2階
〔施工業者〕不明
〔延床面積〕391㎡



2016(平成28)年7月25日 重要文化財指定

東北学院大学本館

Tohoku Gakuin University Main Building



A

カレッジ・ゴシック様式でまとめたキャンパスの象徴的存在

東北学院大学本館(旧専門部校舎)は、東北学院が創立40周年を迎えた1926(大正15)年に竣工しました。米国人建築家J・H・モーガンの設計による、当時米国で続々建設されていたカレッジ・ゴシック様式と呼ばれる中世城郭風の校舎で、鉄筋コンクリート造、半地下の1階の上に2階分が乗る3階建です。工費は、当時としては巨額の23余万円。うち約5万円は、国内政財界からの寄付等で賄われました。



B



C



D

- A 本館真正面の階段には、中央ポーチと連続性を持たせて、人を迎えるやさしさを醸すアーチが用いられています。
- B 外装には秋保産石材(凝灰岩)を使用。1978(昭和53)年の宮城県沖地震で一部剥落しましたが、その後補修されました。
- C 全体的に学校建築らしい装飾を押さえた簡素なつくりですが、エントランス近くにはコリント式柱頭を模した柱が見られます。
- D 太平洋戦争中、階段の鉄製手すりの支柱が1本ずつ切り取られ、供出されました。窓枠、床には米国から輸入したリノリウムが用いられています。

[所在地]土樋キャンパス(仙台市青葉区土樋1-3-1)
[建設年]1926(大正15)年7月
[設計者]J・H・モーガン
[階数]3階
[施工業者]仁田寅藏(施工監督F・B・ニコデマス)
[延床面積]1,904㎡



2014(平成26)年12月19日登録

ラーハウザー記念東北学院礼拝堂

Rahauser Memorial Chapel



縦長窓やステンドグラスが垂直性を際立たせた美しい内外観

ラーハウザー記念東北学院礼拝堂は、1932(昭和7)年3月に竣工しました。シュネーダー院長の米国における募金活動に賛同して、実に5万ドルという巨額の献金を寄せたエラ・A・ラーハウザーにちなみ、その名前が付けられています。本館と同じく設計はJ・H・モーガンで、鉄筋コンクリート造、地下1階・地上2階建、カレッジ・ゴシック様式が用いられています。収容人員は約900名。



- A** 英国より輸入された正面ステンドグラスは、創建当時に設置され、イエス・キリストの昇天(ルカ福音書24章51節)の場面が描かれています。
- B** バルコニーが設けられた室内は、幅・高さ・奥行きのバランスが絶妙で、作家の伊藤整に「日本の大学のチャペルで最も美しい」と評されました。
- C** 外装には本館と同様に秋保産石材が使われています。垂直性を強調した装飾、ステンドグラスに合わせた縦長の窓、上部が扁平なチューダー・アーチが繰り返し用いられているのが特徴です。
- D** 講壇右側にかたちをとどめているのが、東北地方で最初に設置された米国モラー社製の自動演奏機付ハイオルガンです。現在使われているのは、1978(昭和53)年設置のドイツ(ハンブルク)ベッケラート社製のものです。

〔所在地〕土樋キャンパス(仙台市青葉区土樋1-3-1)
〔建設年〕1932(昭和7)年3月
〔設計者〕J・H・モーガン
〔階数〕地上2階・地下1階
〔施工業者〕石井組
〔延床面積〕1,529㎡



2014(平成26)年12月19日登録



東北学院大学大学院棟
Tohoku Gakuin University Graduate School Building

シュネーダー院長のプランを実現した戦後の近代建築

東北学院大学大学院棟(旧シュネーダー記念東北学院図書館)は、1953(昭和28)年に竣工しました。シュネーダー院長の描いたマスター・プラン※は、大戦を挟み実に28年の歳月を経て実現されました。設計者は株式会社山下寿郎設計事務所仙台支社(現・株式会社山下設計東北支社)で、鉄筋コンクリート造5階建、1階と3階にそれぞれ2層吹き抜けの閲覧室を配し、5層の書庫、10室の教授研究室等を備えた、当時日本の大学では数少ない最新式図書館でした。その後、増改築され6階建となり、現在は、図書館分館、大学院教室、施設部オフィスとして使用されています。



- A** 自然石のアプローチを置き、広場の中心部に対して、礼拝堂よりややセットバックして建てられています。
- B** 2階の暖炉のある会議室は、明治末期から戦後まで、親子2代にわたり英文科の教授であった両ゲルハード宣教師(ホール、ロバート)の功績を讃え、今も「ゲルハード記念室」の名で呼ばれています。
- C** 各階をつなぐ吹き抜けの螺旋階段の構造と特注された鉄製手すりのシンプルな意匠が目を引きます。
- D** エントランスホールには、本学の建学の精神を表す言葉として「エホバを畏るるは知識の本なり」(旧約聖書の箴言1章7節)の聖句が掲げられていました。(現在この聖句は中央図書館入口に移設されています。)

〔所在地〕土樋キャンパス(仙台市青葉区土樋1-3-1)
 〔建設年〕1953(昭和28)年 その後、1963(昭和38)年・1966(昭和41)年に改修
 〔設計者〕株式会社山下寿郎設計事務所仙台支社
 〔階数〕6階
 〔施工業者〕大木建設株式会社
 〔延床面積〕2,447㎡(増築の6階を含む)



2014(平成26)年12月19日登録

〈注記〉※シュネーダー院長のマスタープラン3棟の配置について、本館を中央にして、東側に図書館、西側に講堂を兼ねた礼拝堂を置き、知識の訓練と霊性の訓練の実現を目指すとしたもの。〔東北学院時報〕第61号(1925年7月発行)には、D・B・シュネーダー第二代院長が描いた専門部校舎配置想定図が掲載されている。

東北学院大学正門

Tohoku Gakuin University Main Gate



歴史あるキャンパスの表構えを構成する重厚な佇まい

東北学院大学正門は、本館と同時に建設が進められ、同じ1926（大正15）年に竣工しました。アーチ型の開口部を備える2基一对の門型構造物が、奥に見える本館と一体となって、キャンパス草創期から変わらない景色を今に伝えています。設計者は本館や礼拝堂と同じJ・H・モーガンで、鉄筋コンクリート造の構造体の上に石造を模した仕上げが施されています。アーチ上部の歯型装飾（デンティル）や、十字架にTGを重ねた校章等の精緻な細部も見所です。門扉は戦時中の金属供出や戦後の学生運動を背景に複数回交換された歴史を持ち、現在のものは1985（昭和60）年の修復時に当初の姿を参考に造り直されたものとなっています。



- A** 鉄筋コンクリート構造の上に、洗い出しという手法で石造を模した仕上げが施されています。古代ギリシャ以来の歯型装飾（デンティル）、本館や礼拝堂とも共通するチューダー・アーチ、優美な曲線を持つ蛇腹（コーニス）が重厚な印象を与えます。ブロンズ製の校名標は戦後に設置されました。
- B** 背面側（構内側）にはゴシック様式の控え壁（バットレス）が設けられています。上昇性を表現する頂部の意匠は、本館や礼拝堂とも共通しています。
- C** 正門の奥に本館を望むエントランス。広場の右手に礼拝堂、左手に大学院棟が建ち、シュネーダー院長が構想した空間を今に伝えています。

〔所在地〕土樋キャンパス（仙台市青葉区土樋1-3-1）

〔建設年〕1926（大正15）年 その後、1985（昭和60）年に修復（鉄扉の交換は複数回あり）

〔設計者〕J・H・モーガン

〔施工業者〕仁田寅藏

〔延床面積〕構主門間口4.2m・脇門間口2.0m



2021（令和3）年10月14日登録

東北学院の 礎を築いた 三校祖

東北学院は、1886(明治19)年、伝道者養成を目指す「仙台神学校」として産声を上げ、間もなく、今日まで続く普通・高等教育に門を開きました。その業にあたったのが近代日本最初期のクリスチャン押川方義、そして米国人宣教師ウィリアム・E・ホーイとデイヴィッド・B・シュネーダーで、この三者を「三校祖」と呼んでいます。彼らのキリスト教信仰と教育理念を、東北学院は「建学の精神」とし、宗教改革の「福音主義キリスト教」の信仰に基づく「個人の尊厳の重視と人格の完成」の教育にあるとしました。その教育は、聖書の示す神に対する畏敬の念とイエス・キリストにならう隣人への愛の精神を培い、文化の発展と福祉に貢献する人材の育成を目指すものです。



初代院長
押川 方義
おしかわ まさよし

1850-1928

松山藩士橋本家の三男として生まれ、押川家の養子となる。横浜英語学校でキリスト教に触れ、1872(明治5)年米国人宣教師ジェームス・H・バラより受洗。日本最初のプロテスタント教会である日本基督公会の一員となった。1886(明治19)年、ホーイとともに「仙台神学校」を創立。5年後(1891(明治24)年)に東北学院と改称し、南町通りに赤レンガ造りの校舎を新築。翌年初代院長に就任し、1901(明治34)年に辞任。以後も東北学院顧問として終生関わりを持つ。



初代副院長
W・E・ホーイ
ウィリアム エドウィン

1858-1927

米国ドイツ改革派教会宣教師。米国ランカスター神学校卒。1885(明治18)年来日する。押川らと共に翌年、「仙台神学校」、仙台で最初の女子教育機関「宮城女学校」(現宮城学院)を創立した。1892(明治25)年東北学院副院長に就任。1900(明治33)年学院を辞し、家族と共に中国湖南省に転じ、数年内に男子、女子両校、病院を設立、改革派海外伝道の有力な拠点を築きあげた。1927(昭和2)年3月、帰米の途次、船上で死去。



二代目院長
D・B・シュネーダー
デイヴィッド ボウマン

1857-1938

米国ドイツ改革派教会宣教師。ホーイと同じ米国ランカスター神学校卒。1886(明治19)年来日。翌年、仙台に着任し、創立されたばかりの仙台神学校で、説教、講義を担って押川、ホーイを助ける。1901(明治34)年には二代目院長に就任。35年におよぶ在任中、中学部、専門部の学制の刷新と教育施設拡充に力をそそぎ、学院を初期の私塾的存在からキリスト教に基づく教育機関として発展成長させた。東北学院中興の祖。

写真で振り返る学舎のあゆみ

東北学院大学本館(旧専門部校舎)



師範科3年、山川先生の授業風景(現本館2階 総務部長室)1928(昭和3)年春の撮影と思われる。



文科第一部(史学)旧専門部校舎(現本館)の3階閲覧室での研究発表。1937(昭和12)年1月撮影。



「昭和6年春、クラスメーツと屋上にて」と題された本館屋上でのスナップ。

ラーハウザー記念東北学院礼拝堂



1935(昭和10)年頃、礼拝堂入口の名札。当時は礼拝堂で礼拝を受ける者の名札が入口に掲げられていた。



仙台空襲で壊滅した仙台電信局が、仮舎舎として礼拝堂の地下を利用して。1945(昭和20)年前後。



1987(昭和62)年頃までは学生食堂だった礼拝堂地下。2001(平成13)年に資料室となり展示スペースを設けた。

東北学院大学大学院棟(旧シュネーダー記念東北学院図書館)



1955(昭和30)年当時図書館内に開設された山川丙三郎先生記念「ダンテ文庫」。1955(昭和30)年1月撮影。



1965(昭和40)年頃のシュネーダー記念図書館内。竣工当時のままの3階部分まで吹き抜けた閲覧室。



1975(昭和50)年頃の図書館内。2階部分も閲覧スペースになり、照明器具も増設されている。

東北学院旧宣教師館(デフォレスト館)



1919(大正8)年以前に向山から撮影された土樋。東北学院旧宣教師館(デフォレスト館)と並んで建つ洋館ブラッドショー館が見える。



1934(昭和9)年春の撮影とある、東北学院旧宣教師館(デフォレスト館)前での教員と学生たち。卒業式のスナップのよう。



書斎でのJ・H・デフォレスト。(The Evolution of a Missionary, 1914より)

校舎略年表

1886(明治19)年5月

押川方義とW・E・ホーイは7人の伝道者志望の学生を得て、木町通りと北六番丁角の一軒の借家で私塾の形で学校を起こし、「仙台神学校」と名づける。



仙台神学校校舎

1891(明治24)年9月

南町通りに仙台神学校校舎が完成。「東北学院」と改称、学制を予科2年、本科4年、神学部3年として出発。

1905(明治38)年9月

「東二番丁42番地」に普通科校舎が完成。



普通科校舎

1919(大正8)年3月

仙台大火のため中学部(普通科)校舎、寄宿舎(1906(明治39)年4月落成)全焼。

1922(大正11)年6月

中学部校舎(赤レンガ校舎)再建、続いて寄宿舎再建。

1926(大正15)年7月

「南六軒丁2番地」に専門部校舎完成(現在の大学本館)。



専門部校舎

1932(昭和7)年3月

ラーハウザー記念東北学院礼拝堂完成。

1945(昭和20)年7月

旧仙台神学校(東北学院神学部)校舎、仙台空襲で焼失。

1953(昭和28)年10月

シュネーダー記念東北学院図書館完成。

1962(昭和37)年4月

多賀城町(現多賀城市)に東北学院大学多賀城キャンパス完成、大学工学部開設。同校地に東北学院幼稚園を開設。



シュネーダー記念東北学院図書館

1972(昭和47)年8月

泉市市名坂(現仙台市泉区天神沢)に榴ヶ岡高等学校校舎が完成・移転。

1988(昭和63)年4月

大学泉キャンパス完成、大学教養部を移転。

2005(平成17)年1月

仙台市宮城野区小鶴に中学校・高等学校新校舎完成・移転。

2016(平成28)年3月

ホーイ記念館完成。

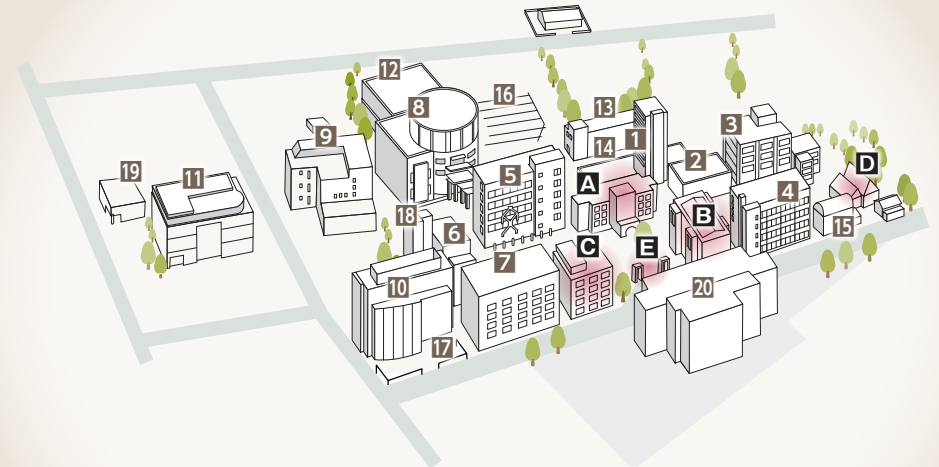
2023(令和5)年4月

大学五橋キャンパス完成、大学工学部、教養学部を移転。



泉キャンパス講義棟

土樋キャンパス Campus Map



- A** 東北学院大学本館 **B** ラーハウザー記念東北学院礼拝堂 **C** 東北学院大学大学院棟
- D** 東北学院旧宣教師館(デフォレスト館) **E** 東北学院大学正門
- 1** 1号館 **2** 2号館 **3** 3号館 **4** 4号館 **5** 5号館(講義棟) **6** 6号館(講義棟)
- 7** 7号館(講義棟) **8** 8号館(講義棟) **9** 90周年記念館 **10** 総合研究棟
- 11** シュネーダー記念中央図書館 **12** 体育館 **13** 部室棟 **14** 部室棟 **15** 音楽館
- 16** グラウンド **17** 駐輪場 **18** ATMコーナー **19** 博物館 **20** ホーイ記念館

Access Map

〒980-8511 仙台市青葉区土樋一丁目3-1
地下鉄南北線仙台駅より富沢駅行乗車、「五橋駅」または「愛宕橋駅」下車徒歩約5分
<http://www.tohoku-gakuin.jp/>



p5·6 DeForest Family Home



Built in 1887, the DeForest family home was designed by a local engineer and constructed by local carpenters as the residence for American Board missionary John Kinne Hoyde DeForest. With the cooperation of Jo Nijima, the founder of Doshisha University in Kyoto, Reverend DeForest founded the English school Toka Gakko in Sendai. After he died, the building was used as a home by subsequent missionaries and in 1940 became the property of Tohoku Gakuin. This two-story American Colonial-style wooden structure stands as a testament to the history of Christianity in modern Japan.

p9·10 Rahauer Memorial Chapel



Completed in 1932, the Rahauer Memorial Chapel was named after an American, Ms. Ella A. Rahauer, to commemorate her generous donation of \$50,000. As with the Main Building, the chapel was designed by Jay Herbert Morgan in the Collegiate Gothic architectural style. The chapel is made of ferroconcrete with a basement floor and two stories above ground. The original stained glass, imported from the England when the chapel was built, depicts the Ascension of Jesus.

p7·8 Tohoku Gakuin University Main Building



Built in 1926, the Tohoku Gakuin University Main Building was designed by American architect Jay Herbert Morgan. It is a three-story, ferroconcrete building in the Collegiate Gothic architectural style. The exterior is in Akiu tuff stone (found in Sendai's Akiu area). The construction cost was over ¥230,000, a large amount of money at the time. About ¥50,000 of this total came from donations from political and business circles in Japan.

p11·12 Tohoku Gakuin University Graduate School Building



The Graduate School Building (previously called Schneder Memorial Library) was completed in 1953 as envisioned by the Master Plan of David Bowman Schneder (1857-1938), Tohoku Gakuin's second headmaster. It was built as a five-story ferroconcrete building (later expanded to six stories). Originally, a reading room with a two-level atrium spanned the expanse between the first and third floors. The building also included book storage areas on all five of its original floors and housed office space for ten faculty members. It was one of only a few modern libraries built in Post-World War II Japan.

p13·14 Tohoku Gakuin University Main Gate



The Main Gate was completed in 1926, at the same time as Main Building. The architect was Jay Herbert Morgan, who designed the Main Building and Chapel, and the framework of gates is reinforced concrete with a masonry-like finish. Exquisite details, such as the tooth-shaped decoration (called "Dentils") above the gates and the school emblem with TG overlaid on the cross are highlights of this gate. The iron doors with ironwork have been replaced several times since its construction. The current iron doors were rebuilt in 1985 with reference to the original ironwork.

